



丁寧に聞き取りを行い、救急隊に出動を指令



タブレット端末で受け入れ可能な医療機関を確認



救急患者を救急車へ搬入



救急患者のたらい回し「ゼロ」を目指す
改善プランの成果

救いたたい命がある

Interview ~救急医療の現場で活躍する人に聞きました

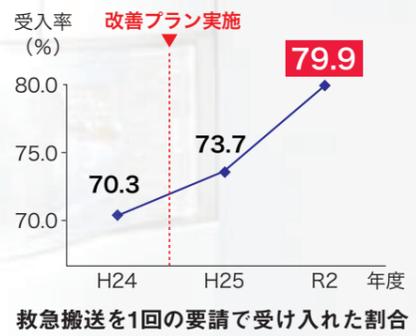


受け入れ要請の場面で
改善プランの成果を実感します

高崎市等広域消防局
救急救命士 伊藤 真吏佳さん

1回の受け入れ要請で搬送できることが増えたと実感しています。以前は、近い病院から順番に電話をかけて受け入れ可能か確認していました。受け入れ先が見つかるまで10か所に電話したことも。今は、タブレット端末で受け入れ可能な病院が一覧で確認できます。重症患者の有無なども分かるので、病院の状況も踏まえ、搬送先を効率的に探せるようになりました。改善プランにより、病院の情報の更新回数が増え、最新の状況を把握できることも要請回数の減少につながっています。これからも多くの命を救うため、病院と連携して迅速で適切な搬送ができるよう努めます。

に、医療機関への補助を実施。夜間・休日の救急搬送患者の受け入れや、脳卒中・心疾患の患者の受け入れ体制づくり、救急医が現場に向くドクターカーの運行などに対しても支援を行っています。改善プランは、今後も経過を検証し、安心につながる医療体制を充実させていきます。



その結果、搬送先の医療機関が1回の要請で決まる、たらい回しのない受け入れが増加。令和2年度は79.9%で

救急隊は、市内の主要病院との通信ネットワークにより、受け入れの可否が分かるタブレット端末で医療機関を確認。搬送先の医療機関を選定し、受け入れを要請します。市は、1日2回以上、受け入れの可否情報を更新した場合

着実に減っています
【たらい回し】
救急患者を搬送したいのに受け入れる医療機関が見つからない、いわゆる「たらい回し」。救急医療の課題の一つです。市は、一分一秒を争う救急医療の現場でのたらい回し「ゼロ」を目指し、平成25年度から独自の救急医療体制の改善プランに取り組んでいます。

救急医療体制強化のための取り組み
救急隊は、市内の主要病院との通信ネットワークにより、受け入れの可否が分かるタブレット端末で医療機関を確認。搬送先の医療機関を選定し、受け入れを要請します。市は、1日2回以上、受け入れの可否情報を更新した場合

市は、市民が安心して生活できるよう救急医療体制を整備するため、平成25年度から救急患者の受け入れ促進や適切な医療機関への搬送などの「救急医療体制緊急改善プラン」に取り組んでいます。今回号では、改善プランの取り組みとその成果についてお知らせします。

問い合わせは、保健医療総務課 (☎381・6111)